

【薬学研究科薬科学専攻】

修了認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]

1. 修士課程においては、薬科学専攻分野における高い専門性と倫理観、国際的視野を持った研究者またはそれに準ずる高度職業人の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（薬科学）の学位を授与する。
 - (1) 薬科学およびその関連する領域に関する広い視野を形成するための基礎的な知識に加えて、薬科学専攻の専門分野に応じた高度な専門知識。
 - (2) 薬科学専攻の専門分野に応じた研究能力。
 - (3) 薬科学専攻において修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、自ら課題を発見・設定し、解決する能力。
 - (4) 薬科学専攻において修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、国際的な視野を持って活躍できる能力。
2. 博士後期課程においては、創造性豊かな優れた研究能力をもち、あらゆる研究・教育機関の中核を担う研究者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、薬科学専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士（薬科学）の学位を授与する。
 - (1) 薬科学専攻の専門分野に応じた極めて高度な専門知識。
 - (2) 薬科学専攻の専門分野において研究者として自立して研究活動を行う能力。
 - (3) 薬科学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的な発想に基づいてこれを解決する能力。
 - (4) 薬科学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、専門性を要する分野において、国際的な視野をもって活躍できる能力。

教育課程編成・実施の方針 [カリキュラム・ポリシー]

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、および薬学に関する専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」を通じて、人類の健康と社会福祉に貢献しうる人材を育成するという教育目標を実現するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
 - (2) 「一般教養科目」では、幅広くかつ深い学識を涵養することを目的とした授業科目として、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を身に付けるための授業科目を配置する。
 - (3) 研究指導の過程では、国内外において実施される学会等での発表、学術論文の発表、外国語文献の調査、指導教員との討論等を行うことを通じて、臨床薬学分野や薬科学関連領域等に精通した研究者・技術者等となるために必要となる能力や技能を修得させることに加えて、研究の計画段階から双方向性に配慮した指導を実施することを通じて、前向きかつ緻密な思考力を養成するとともに、国際的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力にも優れた将来のリーダーを育成するための教育を行う。
2. 博士後期課程においては、修士課程において修得した問題解決能力や指導能力を基礎として、さらに「専門科目」、「一般教養科目」、「研究指導」を通じて、近未来の医療を革新することのできる薬科学関連分野の研究者を養成するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
 - (2) 「一般教養科目」では、自立した研究者として研究を遂行していくために必要な深い学識と汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。
 - (3) 研究指導の過程では、国内外において実施される学会等での発表、学術論文の発表、外国語文献の調査、指導教員との討論等を行うことを通じて、臨床薬学分野や薬科学関連領域等に精通した研究者・技術者等となるために必要となる能力や技能を修得させることに加えて、研究の計画段階から双方向性に配慮した指導を実施することを通じて、前向きかつ緻密な思考力を養成するとともに、国際的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力にも優れた将来の研究指導者を育成するための教育を行う。
3. 他研究科・他専攻の授業科目の履修を可能とし、学際的な分野の学習や異分野交流の機会を提供することにより、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者受入れの方針【アドミッション・ポリシー】

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 修士課程においては、学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養をもとに、専門分野で自ら課題を発見し、それを解決するための研究を行う意欲のある人、またはそれに準ずる高度職業人となるために必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して研究を行う意欲のある人。
 2. 博士後期課程においては、修士課程までに修得した専門知識と研究能力をもとに、自立して創造的研究を行う意欲のある人。
 3. 専門知識や教養をもとに、社会において国際的な視野をもって活躍しようとする意欲のある人。
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

（一般入学試験）

専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力および表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、資格・検定試験の成績、面接等により選抜し、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、修士論文についての口頭試問等により選抜する。

（推薦入学試験）

修士課程において、専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力および表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、書類審査、面接等により選抜する。

（社会人特別選抜、外国人留学生入学試験）

研究機関または企業等で得た経験、学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力をもつ人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、面接等により選抜し、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、修士論文についての口頭試問等により選抜する。